

藤岡市街地地区 都市再生整備計画事業
事後評価シート

平成30年3月

群馬県 藤岡市

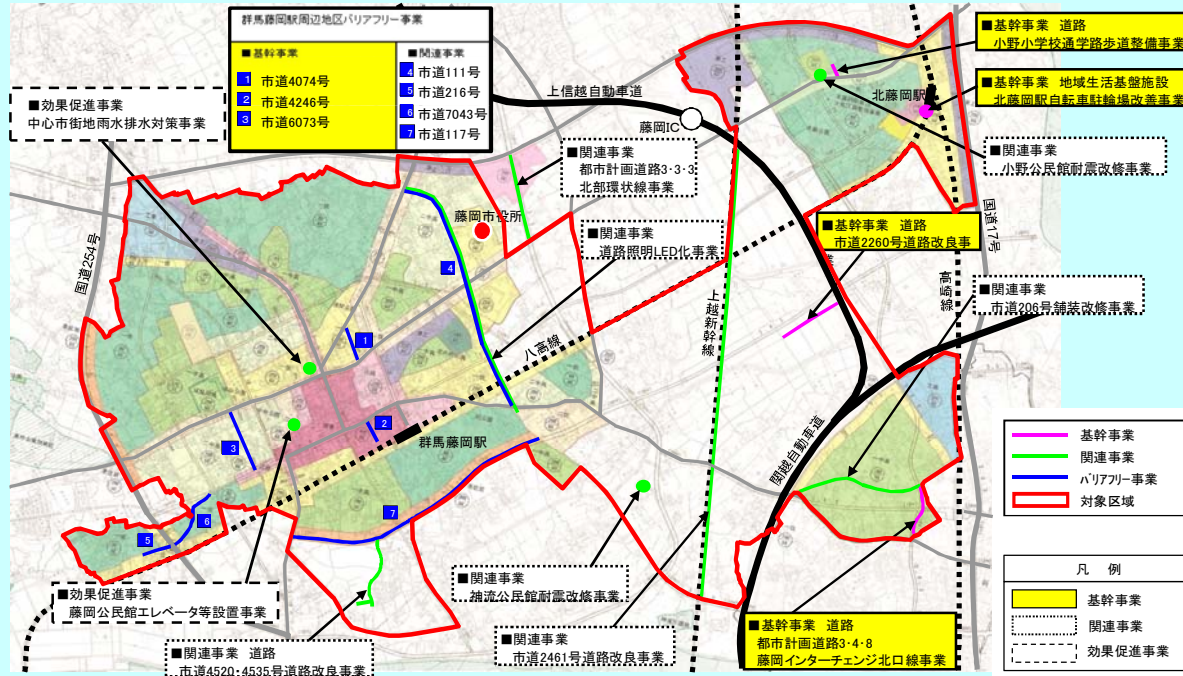
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県	市町村名	藤岡市	地区名	藤岡市街地地区	面積	999ha							
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	H29	交付対象事業費	1,027百万円	国費率	0.4							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	街路:藤岡インターチェンジ北口線 道路:小野小学校通学路歩道整備事業、群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業、市道2260号道路改良事業 地域生活基盤施設:北藤岡駅(駐輪場)											
		提案事業	なし											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし											
		提案事業	地域創造支援事業:北部環状線交差点改良に伴う雨水排水路整備工事											
	新たに追加した事業	基幹事業	なし											
		提案事業	なし											
交付期間の変更	当初変更	平成24年度～28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期					
	指標1	都市計画道路の整備率	%	52.3	H24	63.1	H28	62.6	63.9	○	あり	都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線や北部環状線の整備が進行したことにより、整備率向上に貢献した。整備が進むことで、地区内市街地への通過交通が減少し、歩行者、自転車の安全性の向上が期待される。		
	指標2	公共施設の耐震化率(避難対策施設のうち特定建築物)	%	60.7	H24	100.0	H27	100.0	100.0	○	あり	市内の主要施設で耐震改修が進み、公共施設の耐震化率は大きく改善しており、効果が確認できる。また、藤岡公民館エレベータ設置及び外壁補修事業により、高齢者や身体障害者の避難にも対応した施設の確保に貢献した。		
	指標3	排水エリアの面積	ha	20.3	H24	28.2	H28	81.2	81.2	○	あり	北部環状線交差点改良事業より、中心市街地雨水排水対策事業でパイプ管を設置し、地域一帯の排水対策を実施する方がより効果を得られると判断し、事業の切り替えを行ったことにより、排水区域面積が大きく拡大し、排水の状況が改善した。		
	指標4	北藤岡駅前の放置自転車台数	台	20	H24	7以下	H28	7	15	△	あり	●	目標達成には至らなかったが、北藤岡駅前における駐輪場整備により、放置自転車台数は大きく減少し、平成27年度には0台と目標を達成した年もあり、安全な歩行者自転車空間の確保においてある程度の改善効果があった。	平成30年4月
	指標5										あり	なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	公共施設の耐震化率(避難対策施設)	%	81.8	H24			95.5	97.0				市内の避難対策施設の耐震化工事等を10棟実施したことにより、災害時における安全な避難所の確保に貢献が出来た。	
	その他の数値指標2	歩道のバリアフリー化率	%	60.8	H24			66.4	66.9				事業の実施により、バリアフリー化された距離は増加し、安全な歩行者・自転車空間の確保において改善効果があった。	
	その他の数値指標3	藤岡公民館の2階以上の部屋の利用者数	人	42,929	H24			-	50,819				事業の実施により、2階以上の部屋の利用者数が増加し、高齢者や身体障害者にも対応した避難場所の確保への貢献が示された。	
4)定性的な効果発現状況	・排水状況について、荒天時に定点観測を行いながら排水対策事業を実施している。事業完了箇所から浸水がなくなる等、事業の実施効果を確認している。													
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況			今後の対応方針等								
	モニタリング	担当者会議による中間評価	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 中間評価結果を基に都市再生整備計画の見直しを行い、引き続き事業を推進する。								
	住民参加プロセス	・都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線の整備についての説明会の開催 ・下水道整備への住民意見の反映	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			●								
	持続的なまちづくり体制の構築		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											

様式2-2 地区の概要

藤岡市街地地区(群馬県藤岡市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:安心・安全・快適なまち藤岡の形成 ①歩行者や自転車に配慮したまちづくりの推進 ②災害に強いまちづくりの推進	都市計画道路の整備率	単位: %	52.3 H24	63.1 H28	63.9 H28
	公共施設の耐震化率 (避難対策施設のうち特定建築物)	単位: %	60.7 H24	100.0 H27	100.0 H27
	排水エリアの面積	単位: ha	20.3 H24	28.2 H28	81.2 H28
	北藤岡駅前の放置自転車台数	単位: 台	20 H24	7以下 H28	15 H28



まちの課題の変化

①都市計画道路の整備により市街地への通過交通が減少し、生活道路等の市道整備により市民の安全性の満足度が向上したが、安全な道路利用の環境が確保されていない箇所が残っており、道路整備の継続が必要である。
 ・都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線や北部環状線などの整備が進み、安全な歩行者・自転車空間が確保された。その結果、地区内市街地への通過交通が減少されることで、歩行者、自転車の安全性が高まることが期待される。
 ・バリアフリー事業の実施により、バリアフリー化された距離は増加し、安全な歩行者・自転車空間が確保されつつある。

②調整池整備を実施したことにより排水エリアが拡大し、排水路整備を実施したことにより市街地外周部の防災対策が進んだが、排水対策がなされていない箇所が残っており、防災対策の維持が必要である。
 ・中心市街地雨水排水対策事業により、排水区域面積は大きく拡大。地区の排水の状況が改善し、浸水対策の強化が進んでいる。
 ・公民館等、避難対策施設の耐震改修事業が進み、災害時における安全な避難所が確保されつつある。

③バス運行改善事業等の実施により輸送人員(利用者)の減少はゆるやかになりつつあるが、H23に実施したアンケートで「バスの利用しやすさ」の満足度が低いため、利用者の満足度向上に向けた対策が必要である。
 ・市内循環バスは順調に輸送人員が増加している。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

【効果を維持させるために行う方策】

- ①安全な道路利用の環境の確保を目指した道路整備の継続
- ②避難場所の耐震化や浸水対策の強化による災害に強いまちづくりの推進
- ③バスの継続と安全安心な運行の励行によるバス利用者の満足度向上に向けた対策

【改善策】

- ①避難対策施設の耐震改修の継続
- ②放置自転車対策
- ③藤岡インターチェンジ北口線の継続整備
- ④市民の道路整備状況に対する満足度の向上
- ⑤地域の実情に合わせたバスの効率的な運行

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

—(7) 有識者からの意見聴取—

- 添付様式9— 有識者からの意見聴取—

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		—	【追加】指標4:北藤岡駅前放置自転車台数 従前値:20台(H24) 目標値:7台以下(H28)	北藤岡駅前の放置自転車台数が、駐輪場が整備されたことにより減少したことに対する効果(台数)を数値化し、評価指標とする。
C. 目標値	●		指標1:都市計画道路の整備率 従前値:51.40%(H24) 目標値:52.40%(H28)	指標1:都市計画道路の整備率 従前値:52.3%(H24) 目標値:63.1%(H28)	H26年度に都市計画道路の見直しが行われ計画延長が減少(29.36km⇒26.62km)したことで、藤岡インターチェンジ北口線の事業区間が延長したこと等により、評価指標の数値の見直しを行うものとする。
D. その他					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
街路	藤岡インターチェンジ北口線	830	W=16m L=300m	855	W=16m L=319m	事業費の精査を行った結果、事業費が減少したため全体事業費を減じる。(第3回変更) 道路詳細設計を行った結果、より良い安全な交通環境を確保するため、交差点改良を行う必要があり、それに伴い事業量の増加及び、事業費が800百万円から855百万円増加した。(第5回変更)	指標1に関連し、数値目標の見直しを行った。	●	
道路	小野小学校通学路歩道整備事業	40	L=80m	63	L=80m	現地調査を行い物件を精査した結果、補償費の増加が見込まれるため事業費を増加(第2回変更、第3回変更) 通学路としての利用状況を鑑み、学校側からの要望を受け、整備区間の見直しを行うことになり事業量の減少及び事業費が75百万円から63百万円へ減少した。(第5回変更)	影響なし	●	
道路	群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業	30	L=2,020m	46	L=597m	事業費の精査を行った結果、事業費が増加した(第3回変更) 側溝の布設替え等他事業との進捗を合わせる必要があることから、期間内の完了が難しい区間があり、そのため、事業量を減少した。また、事業費の精査により事業費が40百万円から46百万円へ増加した。(第5回変更)	影響なし	●	
道路	市道2260号道路改良事業	30	W=5.5m L=320m	40	W=6.0m L=425m	事業費の精査を行った結果、事業費が増加した(第3回変更)	影響なし	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	北藤岡駅(駐輪場)	14	176台	23	176台	用地費及び工事費を精査した結果、事業費が増加した(第3回変更)	計画の目標としている「歩行者や自転車に配慮したまちづくり」の効果を示すため、新たな指標を追加した(指標4)	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
公営住宅等整備									
土地区画整理事業(都市再生)									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
住宅市街地 総合整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境 整備事業									
優良建築物等整 備事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整備 事業									
住宅地区改良事 業等									
都心共同住宅供 給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等 整備									
防災街区整備事 業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	北部環状線交差点改良に伴う 雨水排水路整備工事	28	W=900*900 L=220m	-	-	都市計画道路北部環状線(街路補助)の効果促進事業として実施できなかったため、都市再生整備計画から削除した。(第3回変更)	指標3に関連するが、数値指標は据え置く。	-	-
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度		モニタリング	事後評価	目標達成度	変動	あり	なし	
指標1	都市計画道路の整備率	%	-	-	52.3	H24	63.1	H28	モニタリング	62.6	H27	モニタリング	△		
									事後評価	確定見込み ●	63.9	事後評価	○		
指標2	公共施設の耐震化率 (避難対策施設のうち特定建築物)	%	-	-	60.7	H24	100.0	H27	モニタリング	100.0	H27	モニタリング	○		
									事後評価	確定見込み ●	100.0	事後評価	○		
指標3	排水エリアの面積	ha	-	-	20.3	H24	28.2	H28	モニタリング	81.2	H27	モニタリング	○		
									事後評価	確定見込み ●	81.2	事後評価	○		
指標4	北藤岡駅前の放置自転車台数	台	-	-	20	H24	7以下	H28	モニタリング	7	H27	モニタリング	○	●	
									事後評価	確定見込み ●	15	事後評価	△		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	都市再生整備計画に掲載した都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線や北部環状線の整備が進行したことにより、整備率が向上し、目標達成に至っている。	
指標2	耐震化率は大きく改善しており、効果が確認できる。	従前値の計測に間違いがあった(①都市再生整備計画に掲載した耐震改修事業の建築物は特定建築物の要件を満たさなかった。②対象となる施設を再精査し、正しい従前値が78.1%であることを確認した。)
指標3	北部環状線交差点改良事業より、中心市街地雨水排水対策事業でバイパス管を設置し、地域一帯の排水対策を施す方がより効果を得られると判断し、事業の切り替えを行ったことにより、排水区域面積が大きく拡大し、排水の状況が改善した。	
指標4	目標達成には至らなかったが、北藤岡駅前における駐輪場整備により、放置自転車台数は大きく減少し、平成27年度には0台と目標を達成した年もある。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	公共施設の耐震化率(避難対策施設)	%	-	-	81.8	H24	モニタリング	95.5	H27	指標2の向上に寄与するとしていた小野公民館等の改修が特定建築物の要件にあわないことから、計測対象を見直すこととしたため。	
							事後評価	確定 ●	97.0		見込み
その他の数値指標2	歩道のバリアフリー化率	%	-	-	60.8	H24	モニタリング	66.4	H27	基幹事業で実施するバリアフリー事業の実施により、計画の目標としている「歩行者や自転車に配慮したまちづくり」の効果を示すため。	
							事後評価	確定 ●	66.9		見込み
その他の数値指標3	藤岡公民館の2階以上の部屋の利用者数	人	-	-	42,929	H24	モニタリング	-	-	避難施設としての藤岡公民館について、バリアフリー化が進み、利用しやすい施設になっていることを確実に示すため。	
							事後評価	確定 ●	50,819		見込み

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・排水状況について、荒天時に定点観測を行いながら排水対策事業を実施している。事業完了箇所から浸水がなくなる等、事業の実施効果を確認している。
- ・神流地区の座談会にて、通学路である市道2260号の整備により、児童が安心して通学できるようになったとの意見をいただいた。
- ・藤岡公民館にエレベータが設置されたことにより、利用者から安心して利用できるとの意見をいただいた。
- ・小野小学校の通学路整備について、学校や地元とそれぞれ協議しながら整備区間を確定し、整備を進めることが出来た。
- ・平成29年1月(第5次総合計画策定時)に実施した市民アンケートにおける、藤岡地区、神流地区、小野地区の道路の整備状況に対する満足度は低いが、改善してきている。
- ・藤岡インターチェンジ北口線の整備に際して実施した説明会にて、住民からの下水道整備に対する要望を受け、事業に反映した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
担当者会議による中間評価	予定どおり実施した	● 実施時期：H27年度（2回実施） 会議出席：企画課、財政課、生涯学習課、土木課、都市計画課（事務局）	中間評価結果を基に都市再生整備計画の見直しを行い、引き続き事業を推進する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線の整備にかかる住民説明会の実施	予定どおり実施した	● 都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線の整備について説明会をH23年6月に実施し、住民から道路の多機能化等の意見を伺い、整備内容に反映した。	実施した説明会において延伸の声が高まり、第二期事業が開始された（H29年度に境界立ち会いを実施）ため、確実な事業推進に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 庄和商工会による活動に移行したため)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内担当者会議	企画課、財政課、生涯学習課、土木課、都市施設課	平成29年8月	藤岡市都市建設部都市施設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3			
指標名		都市計画道路の整備率	公共施設の耐震化率 (避難対策施設のうち特定建築物)	排水エリアの面積			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	街路：藤岡インターチェンジ北口線	◎	都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線や北部環状線の整備が進行したことにより、整備率向上に貢献した。整備が進むことで、地区内市街地への通過交通が減少し、歩行者、自転車の安全性が向上することが期待される。	-	市内の主要施設で耐震改修が進み、公共施設の耐震化率は大きく改善しており、効果が確認できる。また、藤岡公民館エレベーター設置及び外壁補修事業により、高齢者や身体障害者の避難にも対応した施設の確保に貢献した。		
	道路：小野小学校通学路歩道整備事業	-		○			
	道路：群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業	-		○			
	道路：市道2260号道路改良事業	-		○			
	地域生活基盤施設：北藤岡駅(駐輪場)	-		-			
提案事業							
関連事業	北部環状線	◎				○	北部環状線交差点改良事業より、中心市街地雨水排水対策事業でバイパス管を設置し、地域一帯の排水対策を行う方がより効果を得られると判断し、事業の切り替えを行ったことにより、排水区域面積が大きく拡大し、排水の状況が改善した。また、小野小学校通学路、市道2260号、北部環状線の整備は中心市街地雨水事業の対象区域内の路線であり、道路整備と併せて側溝を整備することにより、排水状況の改善に貢献している。
	市道2461号道路改良事業	-		-			
	市道4520・4535号舗装改修事業	-		-			
	市道206号舗装改修事業	-		-			
	群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業	-	-				
	中心市街地雨水排水対策事業	-	○				
	道路照明LED化事業	-	-				
	藤岡公民館エレベーター設置及び外壁補修事業	-	○				
神流公民館耐震改修事業	-	-					
小野公民館耐震改修事業	-	-	-				

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	住民意見を踏まえた道路整備の検討、実施により、道路の多機能化を図る。	今後も適切な維持管理に努める。	排水状況について、荒天時に実施している定点観測を継続しながら、今後の排水対策を検討し、災害に強いまちづくりを推進する。
-------	------------------------------------	-----------------	---

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		その他指標1	その他指標2	その他指標3			
指標名		公共施設の耐震化率 (避難対策施設)	歩道のバリアフリー化率	藤岡公民館の 2階以上の部屋の利用者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	街路:藤岡インターチェンジ北口線	-	市内の避難対策施設の耐震化工事等を10棟実施したことにより、安全な避難所の確保が出来た。 また、藤岡公民館エレベーター設置及び外壁補修事業により、高齢者や身体障害者の避難にも対応した施設の確保に貢献した。 なお、神流公民館と小野公民館は耐震改修の工事は実施していないが、耐震診断を実施したことにより、神流公民館は耐震性を有していること、小野公民館は補強が必要なが把握でき、一定の効果はあった。	○	事業の実施により、バリアフリー化された距離は増加し、安全な歩行者・自転車空間の確保において改善効果があった。 また、通学路として利用されている市道2260号の路肩を拡張したこと、北藤岡駅の放置自転車台数が大きく減少していることも、安全な歩行者・自転車空間の確保に寄与している。 さらに、中心市街地雨水排水対策事業により、事業による側溝や舗装が整備されたことは、安全な歩行空間の確保に貢献している。	-	藤岡公民館エレベーター設置及び外壁補修事業の実施により、2階以上の部屋の利用者が増加し、高齢者や身体障害者の避難にも対応した施設の確保への貢献が示された。 また、藤岡公民館の最寄り駅である群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業により、安全な歩行者・自転車空間が改善されたことも、利用率の向上に貢献している。
	道路:小野小学校通学路歩道整備事業	-		◎			
	道路:群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業	-		◎			
	道路:市道2260号道路改良事業	-		○			
	地域生活基盤施設:北藤岡駅(駐輪場)	-		○			
提案事業	北部環状線	-	○				
	市道2461号道路改良事業	-	-				
	市道4520・4535号舗装改修事業	-	-				
	市道206号舗装改修事業	-	-				
	群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業	-	◎				
	中心市街地雨水排水対策事業	-	◎				
	道路照明LED化事業	-	-				
	藤岡公民館エレベーター設置及び外壁補修事業	○	-				
	神流公民館耐震改修事業	◎	-				
小野公民館耐震改修事業	○	-					

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	残り2棟(平井公民館、小野公民館)の避難対策施設の耐震化を進め、全施設耐震化が完了できるよう努める。	今後も対象区域内の歩道のバリアフリー化を着実に進めていけるよう努める。また、適切な維持管理を努めることによって、安全な歩行者・自転車空間の確保に努める。	今後も利用しやすい施設であり続けるため、エレベーターの適切な維持管理に努める。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標4												
指標名		駅前の放置自転車台数												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類						
基幹事業	街路:藤岡インターチェンジ北口線	-	目標達成には至らなかったが、北藤岡駅前における駐輪場整備により、放置自転車台数は大きく減少し、平成27年度には0台と、目標を達成した年もあり、安全な歩行者自転車空間の確保においてある程度の改善効果はあった。	Ⅲ										
	道路:小野小学校通学路歩道整備事業	-												
	道路:群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業	-												
	道路:市道2260号道路改良事業	-												
地域生活基盤施設:北藤岡駅(駐輪場)	△													
提案事業														
関連事業	北部環状線	-												
	市道2461号道路改良事業	-												
	市道4520・4535号舗装改修事業	-												
	市道206号舗装改修事業	-												
	群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業	-												
	中心市街地雨水排水対策事業	-												
	道路照明LED化事業	-												
	藤岡公民館エレベーター設置及び外壁補修事業	-												
神流公民館耐震改修事業	-													
小野公民館耐震改修事業	-													

※目標未達成への影響度

- ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>今後も施設の適切な維持管理を行うことと、駅利用者へ、駐輪場の利用促進やマナー向上のための啓発活動を実施することにより、更なる放置自転車の減少に努める。</p>
------------------	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内担当者会議	企画課、財政課、生涯学習課、土木課、都市施設課	平成29年9月	藤岡市都市建設部都市施設課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
都市計画道路の整備により市街地への通過交通が減少し、生活道路等の市道整備により市民の安全性の満足度が向上したが、安全な道路利用の環境が確保はされていない箇所が残っており、道路整備の継続が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線や北部環状線などの整備が進み、安全な歩行者・自転車空間が確保された。その結果、地区内市街地への通過交通が減少されることで、歩行者、自転車の安全性が高まることが期待される。 ・バリアフリー事業の実施により、バリアフリー化された距離は増加し、安全な歩行者・自転車空間が確保されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北藤岡駅前において駐輪場の整備を実施し、放置自転車台数が一時は大きく減少したが、再び増加した。 ・市民アンケートにおける道路の整備状況に対する満足度について、数値は改善してきているものの、依然として、満足度が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線の整備に際して実施した説明会において延伸の声が高まり、第二期事業が実施されており、確実な事業実施が必要となっている。
バス運行改善事業等の実施により輸送人員(利用者)の減少はゆるやかになりつつあるが、H23に実施したアンケートで「バスの利用しやすさ」の満足度が低いため、利用者の満足度向上に向けた対策が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の都市再生整備事業ではバスの事業改善に関する事業は実施していないが、市内循環バスは順調に輸送人員が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部路線(藤岡ー上平線、三ツ木ー高山線)については年々輸送人員が減少している。 	
調整池整備を実施したことにより排水エリアが拡大し、排水路整備を実施したことにより市街地外周部の防災対策が進んだが、排水対策がなされていない箇所が残っており、防災対策の維持が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地雨水排水対策事業により、排水区域面積が大きく拡大。地区の排水の状況が改善し、浸水対策の強化が進んでいる。 ・排水対策のほかにも、公民館等、避難対策施設の耐震改修事業が進み、災害時における安全な避難所が確保されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難対策施設のうち、平井公民館と小野公民館の耐震改修が残っていることから、対応が必要である。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	安全な道路利用の環境の確保を目指した道路整備の継続	都市計画道路及び生活道路等の市道を引き続き整備し、整備率を上げていく。また今後の整備には住民意見を取り入れた整備を実施していくとともに、交通安全対策の啓発活動を行い、交通安全への意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 未整備路線の道路整備事業 交通安全施設等整備 ライフステージに応じた段階的な交通安全教育
		引き続きバリアフリー事業を実施する。また整備した路線について適切な維持管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 未整備地区のバリアフリー事業
	避難場所の耐震化や浸水対策の強化による災害に強いまちづくりの推進	災害時における安全な避難場所を引き続き確保していくとともに、住民に対する防災啓発を実施し、防災意識の高揚を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 公民館の耐震化(平井・小野)、公共施設の適切な維持管理 地域防災計画の適宜見直し 住民参加型の避難訓練等の防災啓発
		荒天時に実施している定点観測を継続しながら実施している排水対策事業を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> 排水対策事業
	バスの継続と安全安心な運行の励行によるバス利用者の満足度向上に向けた対策	今後も市民の移動手段として運行を継続し、輸送人員の維持を図る。また安全で安定的な運行を実施するため車両の計画的な更新を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 市内循環バス運行事業 スクールバス運行事業 運行の継続、車両の入れ替え

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 <ul style="list-style-type: none"> 未達成の目標を達成するための改善策 未解決の課題を解消するための改善策 新たに発生した課題に対する改善策 	避難対策施設の耐震改修の継続	避難対策施設の特定建築物以外の耐震化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 公民館の耐震化(平井・小野)
	放置自転車対策	利用促進、マナー向上のための啓発活動の実施と、ソフト事業も含めた放置自転車対策の検討。	<ul style="list-style-type: none"> ポスター掲示、チラシ配布等による啓発活動等
	藤岡インターチェンジ北口線等の継続整備	藤岡インターチェンジ北口線について、第2期として延伸部分を継続して整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 藤岡インターチェンジ北口線街路(第2期)事業
	市民の道路の整備状況に対する満足度の向上	利用者の意向に沿った整備を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 住民意向を反映した道路整備 市民アンケートによる、満足度調査の継続
	地域の実情に合わせたバスの効率的な運行	利用の少ない路線の短縮検討、重要に応じた車両の運用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情に合わせたバス路線の再編、適正な規模の車両導入

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

--

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度				あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	都市計画道路の整備率	%	52.3	H24	63.1	H28	確定 ●	63.9	○	あり	なし			
							見込み			なし				
指標2	公共施設の耐震化率 (避難対策施設のうち特定建築物)	%	60.7	H24	100.0	H27	確定 ●	100.0	○	あり	なし			
							見込み			なし				
指標3	排水エリアの面積	ha	20.3	H24	28.2	H28	確定 ●	81.2	○	あり	なし			
							見込み			なし				
指標4	北藤岡駅前の放置自転車台数	台	20	H24	7以下	H28	確定 ●	15	△	あり ●	なし	平成30年4月	庁内資料を使用し、H29年度の北藤岡駅周辺での年間の放置自転車撤去台数の合計を算出する。	
							見込み			なし				
指標5							確定			あり	なし			
							見込み			なし				
その他の数値指標1	公共施設の耐震化率 (避難対策施設)	%	81.8	H24			確定 ●	97.0						
その他の数値指標2	歩道のバリアフリー化率	%	60.8	H24			確定 ●	66.9						
							見込み							
その他の数値指標3	藤岡公民館の2階以上の部屋の利用者数	人	42,929	H24			確定 ●	50,819						
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・指標2. 公共施設の耐震化率の目標値の設定について、本計画に掲載した耐震改修工事は避難対策施設であるが特定建築物の規模要件を満たしていないことが中間評価時に判明し、事業効果を計測するためのその他指標を追加した点。	中間評価を実施し、指標の達成状況の確認を行い、必要に応じて目標値を変更することが望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・指標3. 排水エリアの面積について、都市再生整備計画の変更計画作成時に、より効果を得られる事業に変更し、大幅に目標を達成した点。	都市再生整備計画の変更計画作成時に、指標の達成状況の確認を行い、必要に応じて事業と目標値を変更することは、目標と事業の整合性が高まり数値目標の達成に有効であると考えられる。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線の整備に際して実施した説明会において延伸の声が高まり、第二期事業が実施されている点。 ・小野小学校の通学路整備について、学校や地元と協議しながら整備区間を確定した点。	利用者の声を反映し、事業を実施することは、事業の満足度を上げることに有効であると考えられる。また、縦覧の期間や方法を検討する。
	うまくいかなかった点	・評価委員会(都市計画審議会)にて、事後評価原案の公表期間が短いこと、またより多くの市民の声を集められる公表方法を検討してはどうかとの意見があった点。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・指標3. 排水エリアの面積について、荒天時に定点観測を行いながら、事業を実施した点。	事業の実施効果を確認することは、事業の確実な進捗に有効であると考えられる。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

藤岡南部地区

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	藤岡市ホームページへの掲載	平成29年12月8日(金)～22日(金)	同左	担当課への郵送、ファックス、電子メール、直接持参	都市施設課
広報掲載・回覧・個別配布	広報ふじおかへの掲載	平成29年12月1日発刊 広報12月1日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市施設課窓口での閲覧	平成29年12月8日(金)～22日(金)	同左		

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	浦部隆(農業委員長)、矢島諭(商工会議所会頭) 浦部正義(多野藤岡農協理事長)、塚本敏博(建築士会藤岡支部長) 長島秀憲(元県職員) ※欠席:高橋勉氏	平成30年2月21日(水)	藤岡市 都市建設部 都市施設課	既存機関を活用(都市計画審議会)	既存組織(都市計画審議会)そのものを位置づけた
その他の委員	藤岡市議会議員:5名 藤岡市民:6名 関係行政機関の職員:3名				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	意見なし
	成果の評価	意見なし
	実施過程の評価	意見なし
	効果発現要因の整理	・北藤岡駅の放置自転車は、駐輪場の収容台数が足りないことに起因しているのではないかと。藤岡中央高校の通学者が多く利用していること、また、土地区画整理事業が実施され、今後、駅利用者が増加する可能性があることから、駐輪場の収容台数を増やしてはどうかとの意見があった。人口が増えるなどで、収容台数が足りなくなれば検討していきたいと答弁した。 ・歩道のバリアフリー化が進んだことは実感しているが、まだ危険な箇所が多く、側溝が詰まって機能しない箇所があることから、整備を継続してほしいとの意見があった。地域の実情等を踏まえて、優先順位をつけて整備すると答弁した。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表期間が短いこと、またより多くの市民の声を集められる公表方法を検討してはどうかとの意見があった。南部地区の事後評価の際に、公表期間や周知方法について検討すると答弁した。
	その他	意見なし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当であると確認された
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・藤岡インターチェンジ北口線の二期事業の早期実現に期待する意見があった。早期実現に向け整備を進めていると答弁した。 ・岡之郷地区でバスの運行がないので検討してほしいとの意見があった。バスについては、都市計画道路(藤岡インターチェンジ北口線の二期事業)の開通を契機に検討していきたいと答弁した。 ・緊急車両が通行できない道路があるため整備してほしいとの意見があった。地域の実情等を踏まえて、優先順位をつけて整備すると答弁した。
	フォローアップ	意見なし
	その他	意見なし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当であると確認された
その他	意見なし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第5回変更)

藤岡市街地地区

群馬県 藤岡市

平成28年9月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	群馬県	市町村名	藤岡市	地区名	藤岡市街地地区	面積	999 ha
計画期間	平成 24 年度	～	平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度	～	平成 28 年度

目標

大目標:安心・安全・快適なまち藤岡の形成

- ①歩行者や自転車に配慮したまちづくりの推進
- ②災害に強いまちづくりの推進

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

■まちづくりの経緯

本市は群馬県の南西部に位置し、東は埼玉県上里町・神川町、西は高崎市・甘楽町・下仁田町、南は神流町・埼玉県秩父市、北は高崎市・玉村町と境界を接している。市内では昭和40年頃から輸送機器、電気機器などを中心とする企業の進出が進むとともに、周辺市町村から人口の流入が進むなど着実な発展を遂げた。その後、関越自動車道や上信越自動車道など国土軸の根幹をなす高速交通網の整備により、広域的な交通利便性が飛躍的に向上した。その後、平成18年1月に旧鬼石町を編入して現在に至っている。本地区は、藤岡市の北部に位置する市街地である。地区北側は藤岡インターチェンジ及び藤岡ジャンクションなどが立地する交通の要衝であるほか、北藤岡駅周辺で新市街地の形成が進みつつある。地区東側は高崎市側に立地する新町駅の周辺で古くからの住宅地が立地している。地区南側は行政機能や生活利便施設が集まる市の中心部であり、沿道部には商業地、後背部には住宅地が広がっている。地区内では、平成19年度から「藤岡北部市街地地区 都市再生整備計画事業」に基づき、「安心・安全・快適なまち藤岡の形成」を目標に、都市計画道路の整備や生活道路の改善、防災対策、市内循環バス等による公共交通の利便性改善に努めている。

■現況

地区内では市内他地区ほどではないものの緩やかな人口減少に転じており、地区内の高齢化率も箇所によっては30%を超える所が現れている。また、都市再生整備計画事業により市街地の整備改善が進んだものの、都市計画道路の整備率は高くない。また、駅周辺の既成市街地や集落地では歩車分離や防災対策をはじめとした市街地の整備改善が必要な箇所も多く残っている。加えて、都市再生整備計画の事後評価のために平成23年7月に実施した満足度アンケート(回答者:約450人)では、事業実施により改善されたと感じた回答者が32%あり、内訳として特に道路の利用しやすさについては64%の人が良くなったと回答している。一方で、バスに対する評価が11%と低かったほか、自由意見として道路整備による混雑箇所の発生、歩道の設置に関する意見が寄せられている。

課題

藤岡北部市街地地区(第1期)都市再生整備計画の事後評価では一定の効果がみられたものの、以下の課題への対応が求められている。

- ・都市計画道路の整備により市街地への通過交通が減少し、生活道路等の市道整備により市民の安全性の満足度が向上したが、安全な道路利用の環境が確保されていない箇所が残っており、道路整備の継続が必要である
- ・バス運行改善事業等の実施により下げ幅はゆるやかになりつつあるが、H23に実施したアンケートで「バスの利用しやすさ」の満足度が低いため、利用者の満足度向上に向けた対策が必要である
- ・調整池整備を実施したことにより排水エリアが拡大し、排水路整備を実施したことにより市街地外周部の防災対策が進んだが、排水対策がなされていない箇所が残っており、災害対策の継続が必要である

将来ビジョン(中長期)

・藤岡市都市計画マスタープラン(平成19年度)

将来都市像:水と緑に包まれ人と歴史が息づくまち『快適・安心な交流拠点都市 ふじおか』

地域別構想での「まちづくり構想」:

〔中部地域〕①魅力ある中心市街地づくり ②スムーズに流れる道づくり ③快適な生活ネットワークづくり ④緑豊かな市街地景観づくり ⑤利便性の高い公共交通のシステムづくり

〔東部地域〕①秩序ある計画的なまちづくり ②スムーズに流れる道づくり ③自然環境を活かしたまちづくり ④居住と営農が調和した環境づくり

〔北部地域〕①藤岡の新しい顔となるまちづくり ②人々が移り住む新たなまちづくり ③連続性のある沿道まちづくり ④スムーズに流れる道づくり ⑤居住と営農が調和した環境づくり

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1. 都市計画道路の整備率	%	市街化区域内の都市計画道路の整備率	藤岡インター北口線及び北部環状線の整備により、市街化区域内の都市計画道路について整備率10.8%増を目指す。	52.3%	平成24年	63.1%	平成28年度
2. 公共施設の耐震化率	%	市全体の公共施設の耐震化率	避難場所や災害拠点となる公共施設の耐震化と高齢化社会に対応したバリアフリー化を進める	60.7%	平成24年	100.0%	平成27年度
3. 排水エリアの面積	ha	排水施設の整備によって排水環境が整ったエリアの面積	道路整備等に併せた排水施設の整備・改善により、慢性的な水害を防ぎ安産・快適なまちづくりを目指す	20.3ha	平成24年	28.2ha	平成28年度
4. 駅前の放置自転車台数	台	北藤岡駅前における年間放置自転車撤去台数の合計	駅前に新たな自転車駐輪場を整備することで、放置自転車の台数の減少を図り、歩行者や自転車に配慮したまちづくりを推進する。	20台	平成24年	7台以下	平成28年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■整備方針1 歩行者や自転車に配慮したまちづくりの推進～駅周辺や通学路などでの、安全・安心な歩行者・自転車空間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬藤岡駅周辺のバリアフリー化や通学路の改善に加えて、北藤岡駅前の駐輪場整備等を推進することで、安全な歩行者・自転車空間の確保を継続する。 ・岡之郷地区地区の(都)藤岡インターチェンジ北口線を整備し、新町駅利用のための藤岡市側のアクセス動線を確保する。 	<p>【街路】藤岡インターチェンジ北口線事業 【道路】小野小学校通学路歩道整備事業 【道路】市道2260号道路改良事業 【地域生活基盤施設】北藤岡駅自転車駐輪場改善事業 【道路・関連事業】群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業 【関連事業】北部環状線事業 【関連事業】市道4520・4535号道路改良事業 【関連事業】市道2461号道路改良事業 【関連事業】市道206号舗装改修事業 【関連事業】道路照明LED化事業</p>
<p>■整備方針2 災害に強いまちづくりの推進～避難場所の耐震化や浸水対策を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館の耐震改修工事とバリアフリー化を実施し、災害時の安全な避難所を確保する。 ・道路整備や改良にあわせて雨水排水路等を設置するなど、浸水対策の強化を継続する。 	<p>【効果促進事業】藤岡公民館エレベーター等設置事業 【効果促進事業】中心市街地雨水排水対策事業 【関連事業】神流公民館耐震改修事業 【関連事業】小野公民館耐震改修事業</p>
<p>その他</p> <p>【計画の監理】 定期的に事業進捗状況の確認や、事業遂行上の問題点を議論する庁内調整会議を開催する。 また、事後評価実施時に、都市再生整備計画事業の導入による効果発現状況を確認するためのアンケート調査を実施し、今後の事業展開に活用する。</p>	

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	1,027	交付限度額	410.8	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比B/C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
道路		藤岡インターチェンジ北口線	藤岡市	直	W=16m,L=319m	H23	H28	H24	H28	864	855	855	0	855	—
道路		小野小学校通学路歩道整備事業	藤岡市	直	L=80m	H24	H26	H24	H26	63	63	63	0	63	—
道路		群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業	藤岡市	直	L=597m	H24	H28	H24	H28	46	46	46	0	46	—
道路		市道2260号道路改良事業	藤岡市	直	W=6.0m,L=425m	H24	H27	H24	H27	40	40	40	0	40	—
公園															
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設		北藤岡駅(駐輪場)	藤岡市	直		H24	H25	H24	H25	23	23	23	0	23	—
高質空間形成施設															
高次都市施設															
中心拠点誘導施設															
連携生活拠点誘導施設															
生活拠点誘導施設															
高齢者交流拠点誘導施設															
既存建造物活用事業(高次都市施設)															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
		拠点開発型													
		沿道等整備型													
		密集住宅市街地整備型													
		耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										1,036	1,027	1,027	0	1,027	…A

提案事業(継続地区の場合のみ記載)															
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
地域創造支援事業															
事業活用調査															
まちづくり活動推進事業															
合計										0	0	0	0	0	…B

合計(A+B) 1,027

(参考)関連事業															
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費				
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度					
北部環状線	藤岡市上栗須・中栗須	藤岡市	国土交通省	W=25m,L=500m		○				H23	H28	1,500			
市道2461号道路改良事業	市道2461号線	藤岡市	単独	W=5.5m,L=2,600m			○			H24	H28	100			
市道4520・4535号道路改良事業	市道4520・4535号	藤岡市	単独	W=5.0m,L=420m W=5.0m,L=80m			○			H24	H31	50			
市道206号舗装改修事業	市道206号線	藤岡市	単独	W=4.0m,L=1,500m			○			H27	H28	18			
群馬藤岡駅周辺地区バリアフリー事業	市道111号線他3路線	藤岡市	国土交通省	L=3,070m		○				H24	H28	375			
中心市街地雨水排水対策事業	古桜町周辺	藤岡市	国土交通省	L=356.2m		○				H24	H26	59			
道路照明LED化事業	市道111号線	藤岡市	単独	19基			○			H25	H25	6			
藤岡公民館エレベーター設置及び外壁補修事業	藤岡市藤岡	藤岡市	国土交通省	1基 1,231.70㎡		○				H26	H26	53			
神流公民館耐震改修事業	藤岡市下戸塚	藤岡市	単独	1棟			○			H26	H28	2			
小野公民館耐震改修事業	藤岡市森	藤岡市	単独	1棟			○			H26	H27	2			
合計												2,165			